

## 第一次世界大戦まとめ

第一次世界大戦は[1]年、ドイツの同盟国であった[2]皇太子が暗殺された[3]事件をきっかけにはじまった史上初の大規模な戦争であった。[4][5][6]を中心とした数十カ国にわたる協商国（連合国）と、[7]を中心とする4カ国からなる同盟国の両軍の100万人を超える兵士たちがフランスのパリ郊外で塹壕を掘ってにらみ合う事態などが4年間にわたってつづいた。

両者は、大量の武器、弾薬を消費するとともに、戦闘における死傷者も膨大な数にのぼり、これまでの戦争の常識からは考えられないような巨大な物量戦・消耗戦となっていた。またあらたに[8][9][10]などの新兵器が登場し、これらが勝敗の大きな要素となってくるようになった。

こうした事態を受けて、双方は、できるだけ多くの兵士を獲得しようと国内で[12]を強化し、それでも不足する兵士・労働力をアジア・アフリカなどの[13]から動員した。また大量に消費される物資を獲得するため平和産業の工場を軍需工場に転用し、家庭の婦人などを[14]の[15]として徴用、不足する食糧などの物資に[16]制を敷くなどの対応を迫られた。このようにこの戦争は国民生活すべてに影響を与えるものとなっていった。このように政治や社会を戦争目的に再編するような体制を[17]体制と呼ぶ。

戦争が開始されると、社会は一旦好戦的な声が高まり、ドイツでもフランスでも戦争に強く反対していた[18]の多くも戦争支持にまわり、いわゆる[19]体制が形成されていった。しかし戦争の長期化と国民の生活の窮乏から、諸国には戦争への幻滅と不満が高まり、政府は、戦争体制を維持するために、[20]など強力な戦争体制をくみ、[21]勢力を弾圧する姿勢を強めるようになっていっ

た。

しかし[22]では1917年戦争継続に反対する勢力が大規模なストライキをおこした。また、とくに戦争反対の動きが強かったロシアでは1917年3月[23]が発生、11月には[24]政権が成立し、翌1918年にはドイツと[25]条約を結び、戦争から離脱していった。

この戦争が大きく変化したのは[26]年のことである。この年、連合国の一つであった[27]で革命が発生し、翌年には戦線を離脱する。しかしこれ以上に大きな影響を与えたのは世界最大の工業国であった[28]の参戦である。この国はこれまで中立を標榜し、おもに連合国に物資などを供給してきたが、ドイツ[29]の攻撃によって船が沈められ反発を強め、1917年ドイツが[30]作戦を開始するとこれまでの中立政策を改め、ついに[31]側で参戦、軍事・物資両面から連合軍を支えた。しかし、この国の参戦の背景にはそれまでにイギリスやフランスへの[32]が失われるのをおそれたという面も指摘される。

他方、ドイツは1918年になってロシアと対峙していた兵力を西部戦線に送り総攻撃に出たが、失敗に終わり、休戦の方法を探るようになっていった。こうしたなか、ドイツのキール軍港では勝利のあてのない出撃を命じられた[33]たちが反乱を起こし、それがドイツ全土に波及し、ドイツ皇帝は退位した。これを[34]という。こうしてあらたに政権の座についた勢力は連合国との間に休戦条約を結ぶことになる。